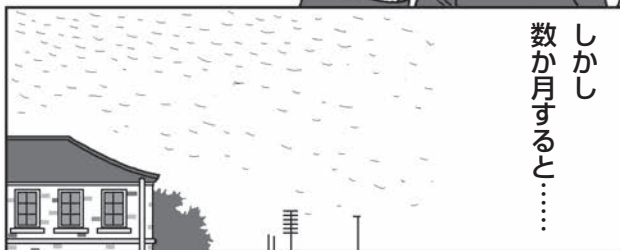
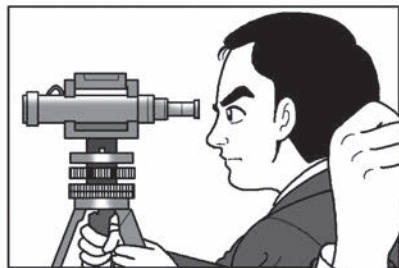
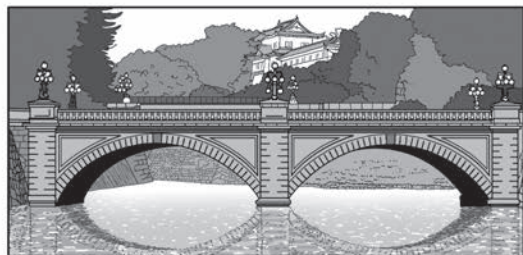


第2章 日本の近代化のために



しかし
数か月すると……

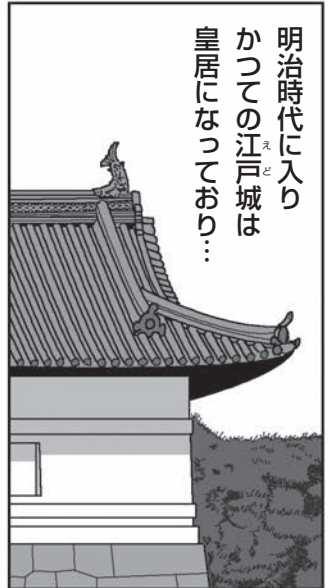
工部大学校を
卒業した
民之助は、
豪商
高島嘉右衛門の
土木建設事業に
従事した。



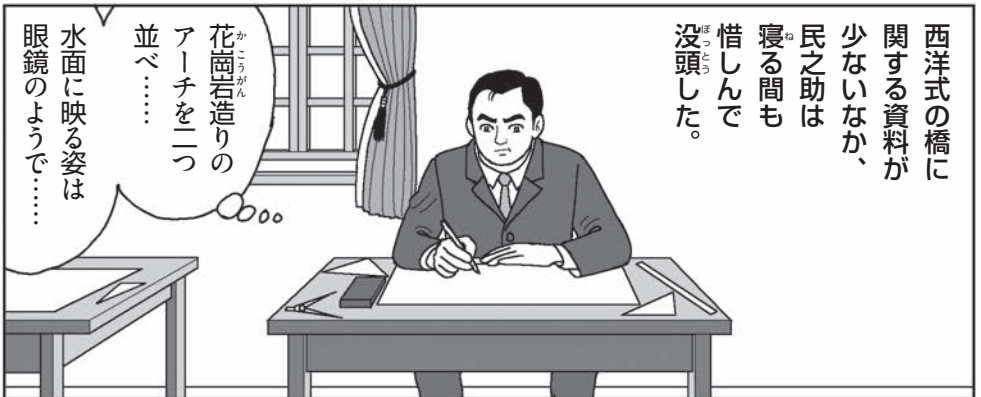
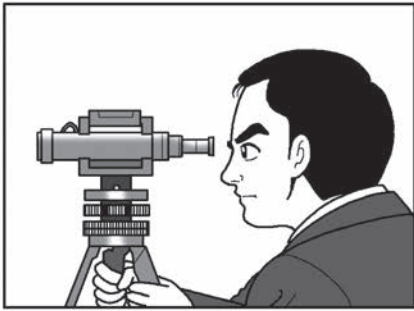
はい

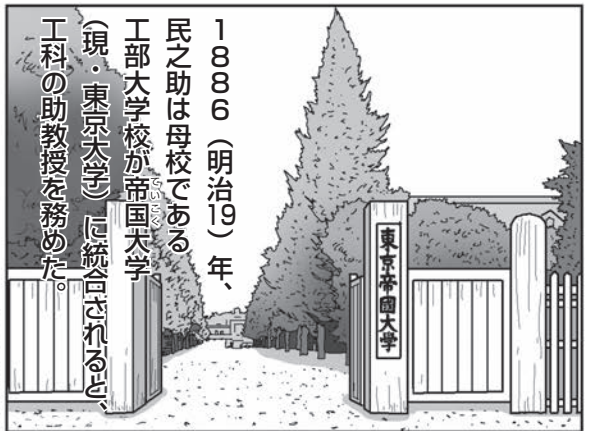
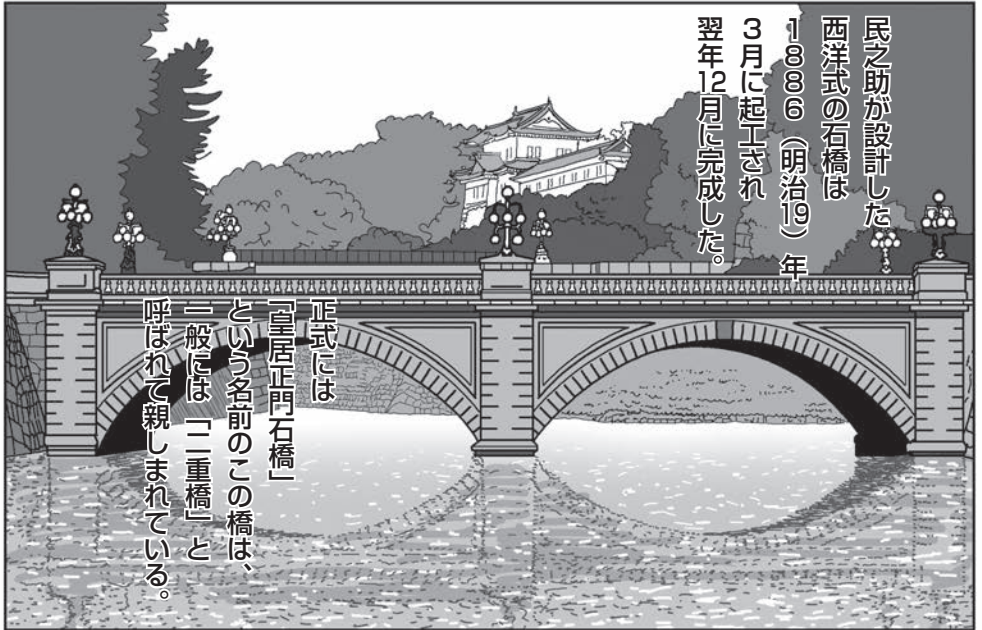
え、
もうやめる
だって？











わが国は
あらゆる面で
欧米列強に
遅れを
とっている



明治の
御代になって
以来

諸外国の
技術を取り入れ
産業をおこして
きたが……



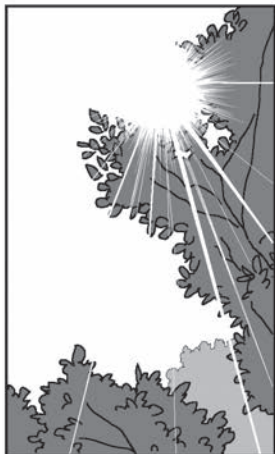
列強と肩を
並べるには
まだまだ
人材が不足
している

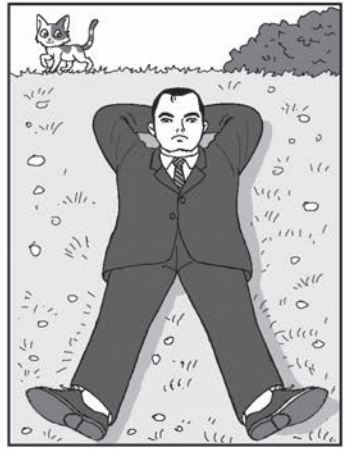


諸君も
ここで
しっかり
学び



この国を
牽引する
指導者として
活躍することを
期待する







民之助は
皇居御造営事務所と
帝国大学工科大学
助教授をやめた。

1886 (明治19) 年



大倉組





後に「大倉組」として
一大財閥を構成する。
その土木建設部門の
大倉土木組は
現在の大成建設の
前身である。



後日――

さつそくだが
佐世保の
築港工事を
手がけて
もらいたい

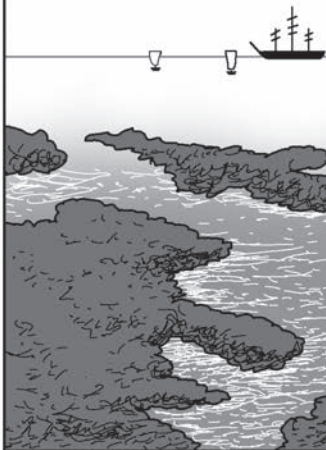


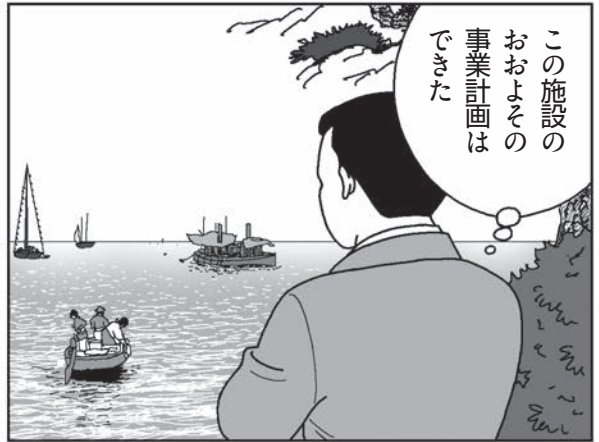
はい

勉強させて
いただきます

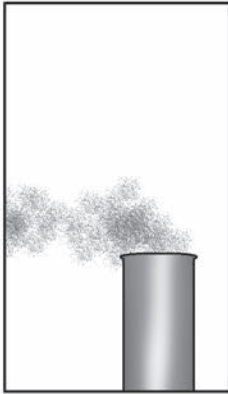


佐世保は
天然の
良港だった
ことから、
軍港として
整備された。









ありがとうございます
ございます

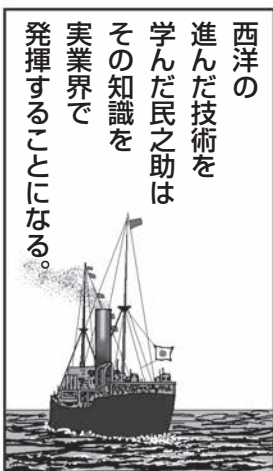


その途中、清国に
立ち寄り、
実力者の
李鴻章に
会っている。



1887
(明治20)年

民之助は
欧米諸視察の
旅に出た。



西洋の
進んだ技術を
学んだ民之助は
その知識を
実業界で
発揮することになる。



民之助はイギリス・
フランス・ドイツ
アメリカなどを
訪れた。